

まぐろ増養殖研究センター

Research Center for Tuna Aquaculture

まぐろ増養殖研究センターは、水産研究・教育機構における太平洋クロマグロ等の増養殖に関わる研究開発を実施しています。長崎庁舎のまぐろ飼育研究施設(陸上施設)を用いて、クロマグロ養成親魚からの安定採卵技術の開発を目的に、親魚養成及び成熟・産卵誘導技術に関する研究開発に取り組んでいる**成熟制御グループ**、奄美庁舎の海上施設を用いてクロマグロ養成親魚からの採卵及び陸上施設における人工種苗の量産技術の開発を目的に、安定的種苗生産技術の高度化を目指した研究開発に取り組んでいる**種苗量産グループ**によって構成されています。



亜熱帯研究センター

Research Center for Subtropical Fisheries

亜熱帯研究センターは、亜熱帯・熱帯特有の水産資源に対応した資源管理方策を提案、実施して効果の検証を行っています。また水産有用生物の成育場として重要なサンゴ礁・藻場等の維持・形成機構の解明、さらに亜熱帯海域に生息する付加価値の高い水産資源、特に魚類を中心とした増養殖に関する研究を行っています。八重山諸島周辺沿岸域に分布する重要な水産資源を適切に維持管理するための研究、低次から高次に到る生物群集の生態特性解明や水産有用種の生息環境保全研究に取り組んでいる**沿岸資源生態グループ**、スジアラ、ニホンウナギ、ノコギリガザミ類等の親魚養成、種苗生産及び養殖手法に関する研究を行っている**生産技術グループ**によって構成されています。



漁業調査船 陽光丸

Fisheries Research Vessel YOKO-MARU

平成22年11月30日に建造された陽光丸は、初代から数えて3代目にあたります。全長は58.6m、総トン数は692トンです。効率的なトロール調査及び精密な海洋観測を可能とし、調査漁具・調査機材等の高度化・ハイテク化を図っています。この調査船は、我が国周辺水域、特に東シナ海とその周辺海域における水産資源の管理、海洋環境の保全、及び水産資源の中国・韓国等との国際共同管理をより迅速かつ効率的、効果的に推進するために、浮魚・底魚類の資源生態調査、卵稚仔調査、大型クラゲ等の生物調査、生物環境調査等を行っています。

